



## こぶん い つく 古墳とどうして言うの、なぜ作ったの

### やよいじだい はか 弥生時代のお墓だから

ふん つち も あ つく はか はか ちゅうせい きんせい つく  
墳というのは、土を盛り上げて作った墓の事です。墓でも、中世や近世に作られたものは、中世墳墓とか近世墳墓といいますが、それより古いものを、「古墳」といいますが、にほん やよいじだい せいき せいき つく  
日本の弥生時代の、3世紀ごろから8世紀にかけて作られたものをさしています。  
こぶん つち いし つ あ おか なか な ひと い  
この古墳は、土や石を積み上げた丘になっていますが、その中には亡くなった人の遺がいがおさめられています。また、とうじ ぞうしよくひん  
同時に装飾品などがいっしょにそえられています。  
こぶん だいきぼ おか まわ ほり ほり しゅうい えんとう じん  
古墳も大規模なものになると、丘の周りに堀がめぐらされたり、堀の周囲に、円筒や人ぶつ どうぶつ た  
物・動物のはにわが立てめぐらされたりしています。

### じぶん けんりよく み 自分の権力を見せつけるため

やまとせいけん にほん かくち じぶん ちから けんい しめ おお こぶん つく  
大和政権ができたころ、日本の各地で、自分の力や権威を示すために、大きな古墳を作るようになったのです。そこにまい 葬されることが、けんりよく おお あらわ  
権力の大きさを表したのです。  
にほん こくない がいこく ちゅうごく ちようせん ししや きよだい  
日本の国内だけでなく、外国（おもに中国や朝鮮）からやってくる使者にも、その巨大なお墓を見せて、自分たちの力の大きさをわからせようとしたともいわれます。

（監修・保岡 孝之）

